

豊かなかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
～道徳の時間における言語活動の充実を通して～

鮫川村立鮫川小学校 (代表) 校長 芳賀 なおみ 教諭 和泉 耕平

1 研究の趣旨

今日の変化の激しい社会においては、例えば社会全体のモラルの低下、家庭や地域社会の教育機能の低下、社会体験・自然体験の不足、その他社会の変化に伴う様々な課題など、児童の自然な道徳性の発達を阻害している現象が指摘される。これからの社会では、次代を担う子ども自らが学ぶ意思と意欲を持ち、未来への夢や希望を抱きながら、自らを律しつつ自己責任を果たし、自分の利益だけでなく、社会や公共のために何ができるかを大切に考えようとする意欲や態度を育むことがより重要になってくると考える。本校の教育目標は、「心身ともに健康で、豊かな人間性と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成」である。そして、めざす児童像として「自ら進んでねばり強く学習する子ども」「思いやりがあり、助け合う子ども」「心身ともにたくましい子ども」を掲げている。子どもたちが自己の生き方を見つめ、一人一人の中に、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるように、道徳教育の一層の充実を図ることが教育目標の具現化につながると考える。これらを踏まえ、本校では、豊かなかかわりの中で、子ども自らが人間としての在り方や生き方を自覚できるようにしていくことが大切であり、自らの中によりよく生きていこうとする力があることに気づき、それを伸ばしていこうとする意欲を高めることが必要であると考え、このテーマを設定した。

2 研究の概要

(1) 道徳の時間における言語活動の充実

- ① 「自己を見つめさせる」指導の工夫として、心に響く教材や資料の活用と書く活動や表現活動等を生かした指導の工夫を図っていくことにより、児童一人一人が資料の内容と道徳的価値をつかみ、自分の考えをもつことができるようにする。
- ② 「豊かなかかわり」につなげる指導の工夫として、発問の工夫や話し合いの工夫をしていくことにより、自分とは異なった考えに接する中で考えを深めたり、日頃の経験を通して感じたり考えたりしたことを言葉を用いて発表し合うことができるようにする。

(2) 道徳教育と他の教育活動との関連

- ① 好ましい人間関係や生活習慣をつくる日常指導の工夫として、環境の整備や他の教育活動との関連を大切にする。特に、何でも言い合え、何でも認め合える学級経営を土台として「あいさつ・返事」など、人とのかかわりにおける基本的な生活習慣を中心に、規則的な行動が進んでできるような働きかけをしていく。
- ② 「豊かなかかわり」につなげるために、家庭との連携や地域との連携を行っていく。家庭や地域社会との共通理解を深める工夫や道徳の時間への積極的な参加や協力を得る工夫など、家庭・地域と一体となって道徳性を高めるようにする。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 道徳の時間における言語活動の充実

- 一枚絵や場面絵は状況を視覚的にとらえるために有効であり、終末の段階でビデオレターや効果音CDを活用したことで、温かい気持ちや実践への意欲が育った。
- 板書については、葛藤場面や中心場面において、児童の考えを分類整理したり、一枚絵などの資料の配置を工夫するなど、構造的な板書にしたことが効果的であった。
- ワークシートを活用して自分の考えを書いたり、動作化や役割演技をしたりする等の言語活動を取り入れることが、他の考え方に気付いたり道徳性を高める上で有効であった。
- 発問や学習形態の工夫、SSTを取り入れた活動を行うことにより、児童のかかわりを豊かにしたり深めたりすることができた。

② 道徳教育と他の教育活動との関連

- 道徳コーナーの設置や異学年交流の積極的な実施、「学校のきまり」の各教室への掲示等により、好ましい人間関係や生活習慣の形成に役立った。
- 児童の実態に即した重点事項を設定し、全体計画や年間計画(別業)を活用・改善したことにより、他の教科との関連が明確になり、道徳の時間の充実を図ることができた。
- 授業参観での道徳の授業の実施、道徳便りやHPでの道徳教育関連のお知らせにより、家庭や地域との連携を深めることができた。
- GTやビデオレター、様々な体験活動を取り入れたことにより、地域の人々との交流が深まり、言語活動の充実にも結びついた。

(2) 今後の課題

① 道徳の時間における言語活動の充実

- 様々な言語活動を取り入れる中で、自己を見つめることや友達の考えにふれることはできたが、今後はさらに揺さぶりの発問を行ったり、葛藤場面を意図的に設定したりすることで、表現する力を養うことにより、「考え議論する道徳」へと発展できるようにしていく。

② 道徳教育と他の教育活動との関連

- 道徳の時間で学んだことを豊かな体験と結びつけるために、道徳教育全体計画の見直しや年間指導計画(別業)を修正・改善しながら、さらに有効に活用できるようにしたい。